

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 15, No. 2

神奈川県立生命の星・地球博物館

Jun., 2009



フクロウのすむ樹洞

かとう
加藤ゆき（学芸員）

この木（スダジイ）の樹洞^{じゅどう}でフクロウが最初に発見されたのは2008年12月のこと、木の近くを歩いていたら洞^{うろ}から飛び出てきた、と同僚の学芸員から報告されました。それから4ヶ月ほど洞を利用していましたが、サクラの花が咲くころ姿を消しました。冬の間のねぐらにしていたのか、もしかしたら子育ての場所として利用しようとしたのかもしれませんが。

フクロウは、留鳥^{りゅうちょう}として沖縄をのぞく日本各地の林で見られます。神奈川

県でも、一年をとおして平地から山地にかけての林に生息し、寺社林や里山など、身近な環境でもみられます。しかし、森林伐採^{ばっさい}や宅地開発^{たくち}などにより林が減少し、フクロウがねぐらや営巣^{えいそう}場所として利用できる洞のある大木が少なくなりました。近年は、フクロウの姿をみかけるのはまれになりました。

この木は博物館のすぐ近くにあります。身近な場所で、フクロウがくらせるような洞のある木を見られるのは、大変すばらしいことです。